

獣医学系大学家畜病院（動物医療センター）の 産業動物臨床に果たす役割

小岩政照[†]（酪農学園大学獣医学部教授）



1 はじめに

獣医師の使命は、動物の診療と畜産物の品質・安全管理に基づいて、人の健康を守ることである。小動物臨床は人医療に準じた獣医療によって人の心の健康（癒し）、公衆衛生は畜産物の品質・安全検

査に基づく人の食の安全、そして産業動物臨床は産業の獣医療によって産業動物の健康管理と畜産物の品質管理、人と動物の共通感染症の診断と防疫によって人の健康に寄与している。すなわち獣医師の仕事は、人の健康になくてはならない存在である。

今日まで産業動物獣医療は、診療、保健衛生指導等を通じて、畜産業の発展、動物の保健衛生の向上および公衆衛生の向上に大きな成果を上げてきたが、近年、獣医療を取り巻く状況には、著しい変化がみられる。特に、酪農を中心とした畜産業が成長を遂げているなかで、飼養規模の拡大等を背景とした慢性疾患の顕在化や個体の生産機能に密接な関連を有する疾患の発生の増加等が、生産性の向上を図る上での障害要因となっている。一方、国民の健康意識の高まり等を背景として、食品の安全性に対する関心が大きくなっており、消費者ニーズに即した品質面、安全面、価格面で優れた畜産物を安定的に供給するためには、一層の獣医療の総合的な向上が必要になっている。また、家畜・畜産物の貿易の拡大に伴い、海外からの悪性伝染病が侵入するリスクが高まり、緊急時を想定した組織的な家畜防疫体制の確立が求められている。近年、口蹄疫やヨーネ病などの悪性伝染病や牛海綿状脳症（BSE）、牛ボルナ病などが我が国においても確認されており、産業動物獣医師の社会的な使命が増大している。さらに、生産性向上の観点から、バイオ

テクノロジー等の新技術の開発やプロダクションメディスン等による指導に対する期待も高まっており、疾病の発生病態の解析をはじめ、発生子防、慢性疾患の防除や家畜飼養管理技術指導などの幅広い産業動物の獣医療が求められている。

2 大学における生産動物臨床教育

産業動物の獣医療が21世紀の畜産業の健全な発展、動物の保健衛生及び公衆衛生の向上に貢献するためには、大学における産業動物の臨床獣医学の教育、実習、研究、普及活動の質の高い優れた教育が求められている。また、大学における産業動物臨床教育が社会の期待と要望に貢献するためには、学生教育に留まらず、研修教育と卒後教育も行うことが必要である。この大学の産業動物臨床教育の中心的な役割を担うのが、臨床例のポリクリニックとフィールド診療を行う家畜病院（動物医療センター）である。しかし、現在の大学における産業動物の臨床教育は、獣医師国家試験合格レベルの座学（講義）中心になっている傾向にある。座学を中心とした臨床教育の問題点は、“病気は知っているが、発病している動物を見ても病気を診断することができない”、“常に病気は典型的な症状を呈する”と言う様な、知識だけでしか病気を理解できない教育になりがちである。本年4月に宮崎県で発生して大きな被害を与えた口蹄疫は8月に終息したが、今回発生した宮崎県の口蹄疫は、我が国の大学における産業動物の臨床教育と危機管理体制弱点と未熟さを露呈した事件であったとも言える。

大学における産業動物の臨床教育は“現状の問題解決と将来の展望”に基づいた教育、研究、普及を行わなければならない。病気に罹患した家畜に遭遇した際には、迅速正確に診断できる高いレベルの“診察力”が必要で

[†] 連絡責任者：小岩政照（酪農学園大学獣医学部獣医学科生産動物医療教育群）

〒069-8501 江別市文京台緑町582 ☎011-386-1111 FAX 011-368-1214 E-mail: koiwa@rgu-lavmth.jp

ある。診察力とは、①学習による疾病病態の理解、②診察の感性・技術、③経験、の総合的な能力である。また医療学習の記憶率は、講義5%、視聴覚20%、デモンストレーション30%、実習75%であり、医療学習の記憶率は講義に比べて実習が明らかに高いことされており、診察力レベルを向上させるためには、講義だけでなくポリクリニックを中心とした診療実習とフィールド診療が不可欠である。

3 臨床教育

(1) 学生教育

我が国の獣医系大学における産業動物臨床教育は、大学の差が大きく全ての大学が臨床現場の期待に十分に対応していない現状である。臨床現場は、コミュニケーション能力と臨床問題解決能力の臨床教育を期待している。この期待に答えるためには、①受動的な教員指導型教育（講義）、②能動的な実習（ポリクリニック教育）、③能動的な臨床問題解決型教育（フィールド教育）の3つの臨床教育を行うことが必要である。特に、産業動物に対する診療行為が主に牧場内で行われ、さらに発病には牧場内における要因と誘因が大きく関与しており、家畜の病気の病態とその発病の要因と誘因を理解して予防・制御の対策を学習させるためには、臨床問題解決型教育が行えるフィールド診療は非常に重要である。すなわち、学生に対する生産動物の臨床教育は、座学による受動的な知識の教授だけでなく、動物病院におけるポリクリニックとフィールド診療による臨床問題解決型教育が必須である。また、フィールドは臨床教員にとって、産業動物の経済と疾病の動向と研究課題を知ることができる最善の場でもある。

今後の課題としては、従来の講義を中心とした受動的な教育に加えて、ポリクリニックによる診察力教育、フィールド診療による臨床問題解決型教育を行う必要がある。しかし、その妨げとなっているのが、産業動物の臨床教員の数と診察力の不足、臨床例とフィールド診療の不足である。この課題を解決しない限り、我が国と他の先進国との産業動物における臨床教育の差は短縮されないであろう。

現在、先導的の大学改革推進委託事業において獣医学教育コアカリキュラム委員会が設立されて、国際的な獣医学教育レベルを目指したモデルコアカリキュラムの作成

が行われおり、大きな期待が持たれている。

(2) 研修教育と卒後教育

獣医系大学における産業動物の臨床教育は学生教育と研修教育、卒後教育を行うのが使命である。産業動物の臨床教員は、臨床獣医学を学生に教授すると同時に、研修と卒後の教育を行うために自らの診療力を高め、畜産の経済と疾病の動向に基づいた研究を継続しなければならない。しかし、前述した様に獣医系大学における産業動物の臨床教育は、学生教育を中心とした臨床教育を主に行っているのが現状であり、今後、各大学の臨床教員は研修と卒後の教育を行える診療力のレベル向上が必要である。

4 今後の産業動物臨床教育

我が国における産業動物獣医療が畜産経済の向上に貢献するためには、獣医系大学の動物病院の果たす役割が極めて重要である。学生に対しては産業動物獣医療の社会的な使命と役割の理解を基軸とした基礎、応用および臨床の獣医学と、動物病院におけるポリクリニックとフィールド診療の問題解決型の能動的教育が行われるべきである。また、研修と卒後の産業動物の臨床教育を行う場合においても、動物病院を中心とした臨床教育が行われるべきである。そのためには、課題となっている獣医系大学における産業動物の臨床教員の数と診察力の不足、臨床例とフィールド診療の不足、を解決しなければならない。

短期的な対策としては、①産業動物の臨床教員の数と臨床例、フィールド診療が充実している大学における集中的なポリクリニックとフィールド実習、②学位を有する嘱託臨床獣医教員による臨床実習の充実等が考えられる。また長期的には、現在検討されているモデルコアカリキュラムに準じた家畜（動物）病院を中心とした臨床教育が早期に行われるべきであり、獣医師国家試験制度の見直し(実地口頭試験の再考等)の検討も必要であろう。

産業動物は農学と畜産学、獣医学の科学的な融合によって、その一生を全うする。獣医師は家畜の健康と福祉、生産量における中心的な役割を担っており、家畜の健康を増進させることによって消費者に安全な畜産製品を提供することが産業動物獣医師の責務である。獣医系大学の動物病院が産業動物臨床に果たす役割は重大である。